時事新報

左の一編ハドクトルシモンズ氏ガ過日交詢社ノ大會ニ於テ社會ノ進歩必ヤシモ改良ニアラザル能ハザルヲ演說シ當日尚ホその意の盡さざる所ありとて更に記しさる英文と翻譯あるものあり

余は過日交詢社の大會に於て日本社會は近時大に進歩あるれども是を即ち改良と見做す能はざる旨（四月十九日の本紙上に譯載す）を演說せしが此旨果して事實に相違あるとせば日本國民の其進歩の實をして有用改良の進歩たらしめんことを冀望する其際よ若しも心得違ひして外國人の之を正し忠告するあるとも寧ろ悅んで聽く可き筈なるに不思議ある哉、實際に於て然らず余の常に其何故なるを會得するに苦しみしが退て千思萬慮すれば日本人が外國人に對して其忠告の忠あるにも拘はらず其理由あるものありとの結論を得さり

日本の古來東隅に孤立して永く世界文明の先進國と相隔絕しさるあとあれば世に國利を進め民福を增すの事物の數、多しと雖ども曾て之を知らざるも鎖國の弊、固より怪むに足らず其一朝眼を開て西洋諸國と交るや忽ち文物の美たるに驚き一時手を唾きして其餘光を分ちたるの氣力の自由餘適にして今に至て普く文明諸國の稱賞と博し以て世界獨步の一例を遺しさり其日本人民中通識の士の當時早くも自國の風習に惡しきもの多きを承知して之を改良するを望み何卒して風習の我に優りたるものを見出さんとて誠意誠心を熱しさるものなれば博く知識を得て風習改良の實とあさんが爲め之を西洋の高等文明國に求むるの亦自然の順序なりと云ふべきのみ故に多勢の外國人と聘し莫大の費用を投じて其助言教示を仰ぎたるも折角の企望其詮なく顧問の教師多くは有識の人にあらず偶々專門の術に明なるものも實用に益を爲さず日本人民に特有の事、內實の情は更らに知らざるが故に策を立つる屢々ありと雖ども皆拙劣にして取るに足らざるもの多し拙策にして止めば猶ほ都合すべしと雖ども實際に日本國を禍し日本人と害するに足るものさへ少かからず當國人民の愈々之を見て愈々之を悟り次第に外國人と忌嫌して疎外の心を生じ僅外國教師の教示も尋常外國人の助言も一切之を聞かずして躬自から事業を執り外國人の信用全く地を拂ひたり左れば外國教師も日本人民の意を迎へて其職業を專門の教育に限りて日本人の爲す所へは復さ助言の喙を容れざるに至れり

抑右外客排斥より生じ來る結果は果して如何あるや蓋し邪惡相半ばするものと思はるゝなり先づ其結果の善あるものを申せば日本人よりして自から手を下して其風俗習慣を改良するには有識者ゐ非ざれば能はず其有識の實を以て自國の風習と外國の風習と相對照し慥よ自國風習の陋しき部分を見定めたる上我を變じて彼と模する事なれば其變化の必ず眞正の改良あるや必せり此點より論ずれば外國人を排斥するの寧ろ喜ぶべきが如しと雖ども己れを知るの己れに若くなし彼れを知るの彼れゐ若くなし外國の人が自國の風習の污下にして必ず之も悪習模倣すべからざるの事情あると知るの即ち外國人の外國人たる所に上て其明遙よ日本人の上に出でたり左れば日本人が外客を排斥して其助言を信用せざるの風と成してより外國の風習學ぶべからずとの助言をも求めず又之を採用せず其極の變化と改良と相背馳するの弊害に陷る豈よ結果の惡しきものあらずや即ち外客排斥の結果は外客を排斥して其助言を信用せざるの致す所なれども余の考よる所を以てすれば猶ほ此外に一理由の指點すべきものあり即ち日本人の誠想にして其心に聞へらく西洋人の我を以て劣等の人種と見做すとならん故に我よ敢ふるにも大を加減して其爲す所を以て我に爲さしむるあとなかるべしと猜疑常よ其胸間に横たはり恰もひがみ根性と以て己れより優等なるものゝ輩ゐ倣はんとするあとなれば偶々外國人が東西風習の優劣に就て然かく誤想をる勿れゐと助言するも猜疑の心を以て之と信せず甚しきの外國人と敵視して之に近つかず其人が折角の深切を以て發言するの誠意をも知らざるものの往々にして然り所謂疑心暗鬼を生ずるものあらんのみ

（以下次號）

官報

○文部省令第一號

明治十九年（五月）文部省令第十號參照

集規則第一條第三項ノ但書ヲ刪除ス

明治二十年四月三十日　文部大臣森有禮

○文部省令第一號參照

明治十九年（五月）文部省令第十號抄出

第一條第三項年齡十七年以上二十年以下ノモノ

但第二條第一種ノモノハ此限ニアラス

第二條第一種講師長ノ薦舉ニ係ルモノ

○長崎分遣隊交代　熊本鎮臺管轄長崎分遣隊兵隊は交代として去る二十日出發せり

○琉州嶋亂匪征伐慰勞の上諭　清國皇帝は曩に兩廣總督張之洞の奏聞よ據り深く當時琉州嶋亂匪征伐に從事せる將士に懷念し本年四月十三日上諭を發し其功勞を賞する爲に各種の珍品を各將士に分給せらるたり其上諭左の如し

前廣西提督馮子材ハ琉州ニ殺向シテ亂匪征討ニ從事セレヨリ以來險ヲ冒シ軍ヲ督レテ中堅ノ兩翼ヲ攻取シ其堅窟ヲ破リ瓦氏ヲ擒シ首逆ヲ斃悪黨ヲ擒シタル等戰捷管カ進退機宜誠ニ其宜シキヲ得タルノ結果ナルニ因テ今自玉撒指一面自玉納小刀一口並ニ大小荷包二對ヲ下賜シ以テ勇力嘉奬ノ意ヲ示スモノナリ尚ホ戰捷管ハ兵ヲ琉州ニ駐メ琉州ニ殺向シテ亂匪ヲ掃蕩シ命シテ能ク良策ヲ分別シ勦撫適宜ニ之ヲ施シ全功ヲ竟ケシメ義ニ張之洞ノ奏聞ニ據ルニ藩臬ハ鹽運使等諸員ニ命シテ軍糧ノ氣願ル重シト聞ケリ軍兵遠征深ク勞苦スルニ堪ヘタリ效ニ恭聽端佑康頤昭豫莊誠皇太后ノ懿旨ヲ奉シ御製平安丹十匣ヲ遞征ノ將士ニ分賞セシメラル乃チ勝捷管ヨリ聖旨ヲ傳ヘテ配與セシムルモノナリ

○支那新任官吏　本年三月廿四日乃至卅日列行の北京京報に載錄せし新任官吏中最も其要緊ある者を抄出せば

盛京刑部侍郎　英照（廿四日）

禮部尚書　奎潤（廿四日）

廂藍旗蒙古都統　桑縣（廿四日）

充國史館副總裁　恩承（廿五日）

副都統　文格（廿八日）

三姓副都統　福楙（三十日）

通政使司副使　左春坊左中允　韓文鈞（三十日）

○巴里大學年報　佛國巴里府分科大學聯合會に於ては此程千八百八十五年十二月二十八日の布告第十四條に從ひ書記ラヴァッス氏の調査に係る學年報を文部卿に呈出せり今其要領を抄出すれば即ち左の如し

巴里大學生は合計一万六百七十九人にして其內三千五人は プロテスタント派宗學大學に、四百六十七人は高等製藥學校に在り、右大學生の中には一人に學校に、千七百六十七人は理科大學に、九百二十八人は女科大學に、三千七百八十六人は法科大學に、三千六百九十六人は醫科大學に、四百六十七人は高等製藥學校に在り右大學生の中には一人として二百所の分科大學に修業する者、例へば法學生にして文科大學に兼業し、醫學生にして理科大學に兼業するが如きものありと雖ども大學生の總數は一万人に下らず而して此分科大學生に加ふるに高等教育を受ける諸生徒即ち諸藝學校、鑛山學校、橋梁道路學校、師範學校、高等修業學校及び中央技術製造學校の生徒を以てするときは全體界中、一も我が佛國大學の如く多數の生徒あるものを見ず

右に列擧せる分科大學中外國の學生駐しとせず即ちプロテスタント派宗學大學には五名、法科大學には百七十七名、醫科大學には百三十三名、理科大學には五十八名、文科大學には四十名、高等製藥學校には二十一名、合計八百三十四名の外國人あり

又女子にして學生たる者は醫科大學に百八人、法科大學に一人、理科大學に四人、文科大學に五十一人あり

又文科大學の學生は慣ね現今や試驗に關する統計を擧げんに理科大學に於ては全科得業士の候補者三百九十名、研究科得業士の候補者三百九十名、醫科得業士の候補者四百三十六名の候補者を試驗し文科大學に於ては第一部得業士候補者三千八十九名、第二部得業士候補者二千二百八十五名合計五千三百七十四名の候補者を試驗せり

要するに還文二學の大學に於て試驗せし候補者は合計八千八百十人にして其中、理科大學に於ける及第者の割合は全科得業士に在りては百名に對する三十三名、專科得業士に在りては四十六名、補充科得業士に在りては五十五名、即ち三科を併すときは百名に對する四十三名の割合あり但し全科得業士候補者の中、百名に對する六十七名は次回の試驗まで延期せられたり又文科大學に於ける及第者の割合は第一部に在りては百名に對する三十九名二九、第二部に在りては百名に對する五十一名八三あり

右二學所の分科大學に於て試驗及第せし者の中、優等の賞牌を受けたる者は頗る稀れあり即ち理科大學に於て及第せし者千百七十九名の中、九名は優百五十九名は良三百二十二名は佳、六百八十九名は並の賞牌を受け文科大學及第者二千四百六十五名の中、十二は優、二百六名は良、六百八十七名は佳、千五百六十五名は並の賞牌を受けたり

又學生試驗の結果を擧ぐれば即ち左の如し

プロテスタント派宗學大學に於ては得業士免狀九通及博士免狀一通を授與せり

法科大學に於ては六千四百十六名の試驗（有力、特別試驗、第一得業士、第二得業士、學士及博士）を行ひ其中四千六百九十九名は及第し千七百十七名は次回に延期せられたり

醫科大學は千八百八十五年十一月及千八百八十六年七月の二回に於て二百八十名の候補者を試驗し學士免狀百二十五通を授與せり但し此中百二十八名は敏學士（候補者百九名）の免狀、五十九通は物理學士（候補者百二十八名）の免狀、十一通は博物理學士（候補者四十三名）の免狀あり

文科大學は千八百八十五年十月、千八百八十六年四月及同七月の三回に於て二百七十二名の候補者を試驗し免狀八十三通を授與せり但し此中百二十八名は文學士（候補者百九十四名）の免狀、八通は哲學士（候補者三十九名）の免狀、一通は歷史學士（候補者四名）の免狀あり

醫科大學に於ては三千八百五十六名の試驗を行ひ博士試驗を受けたる者三千六百九名の中、二千八百四十一名は及第し七百六十八名は次回に延期せられたり又藥生士官の試驗を受けたる者百四名の中、七十一名は及第し三十三名は延期せられ產婆の試驗を受けたる者百六名の中、九十三名は及第し十三名は延期せられたり

高等製藥學校に於ては二千六百七十五名の候補者を試驗し其中千九百五十七名は及第し七百十八名は次回に延期せられたり

試驗を受けたる者は合計百万九千七百六十二名にして其中次回に延期せられたる者は法科大學に在りては百名に對する二十六名七醫科大學に在りては百名に對する二十七名理科大學に在りては百名に對する五十三名文科大學に在りては百名に對する六十八名高等製藥學校に在りては百名に對する二十七名七三の割合あり

（以上本年四月三十日官報）

雜報

○建白書呈出　東京米商會所にて一日下元老院に於て ブールス條例の審議中ある由を傳聞せしかば右發布の上は株主仲買等に非常の影響を及ぼすべきとして同所頭取肝煎井に株主總代人として岡山兼吉岡本貞烋大谷木備一郎ゐ三氏が連署の上一篇の建白書と認め東京府知事ゐ與書と得たる上去月二十九日元老院に呈出したるよし

○法官代言人懇親會　東京代言人組合員諸氏は去月三十日向嶋八百松樓に於て懇親會を開く等ありしが前號に記しさる如く今度更に大審院東京控訴院東京始審裁判所員と合併して法官代言人懇親會を開くに付き右代言人の懇親會は見合せ其場所日限等は追て定むる都合なるよし

○勳章贈與　去る明治十七年の頃墺地利公使館を麹町區紀尾井町へ新築ゐ際其計畫と芝區今入町なる建築士長鄉泰輔氏に依頼せしにより同氏は委細の計畫しく同國公使の許に差出したると同公使より之を本國政府へ廻送したるに同國政府にては其計畫の精密なるを賞し今度勳章を同氏へ贈與したるよし

○避雷針設置　海軍省よては今度府下白金目黑及び相州長淵の各火藥製造所ゐ避雷針と設置するよしにて府下京橋區新着町なる電氣器械所明工舍へ注文ゐたりとい ふ

○幻燈器械　岩手縣下の教育有志家い今度幻燈器械を購求して教育用に充てんと其注文を東京の米國人某に委托しさるよし

○救岩艦　目下横須賀造船所に於て製造中なる救岩艦い本月中旬進水式を執行するよし

○藥舖志願者　い過日來東京府に於て試驗せしに受驗者は百二十名ありしが全く終りゐを受驗せしは百名にて右の答案い既に內務省に廻送したるよし

○產婆試驗　東京府廳にては產婆志願者二十九名の試驗を去月十八日より廿七日迄に執行しありしに內十四名は一等產婆

名は二等產婆

○山林小集　東京市內にて目下元老院に於て審議中なる大日本炭材山林地租改正法案は內地人民に適當なるべき大日本炭材は內地人民に適當なるべきといふ

○岡野英太郎氏い去る明治十年しが今度コロンボに於て文學を修業せり

○露國外國語學校　ウラジヴォストーク艦が太平洋を渡航せしに拒絕し且つ露國は入港の理由を問ひしに拒絕せしとの報道を得たるよし近着の報道によれば支那の電通するあとタン氏より國と支那の勸れ佛國領事と協議せりとい ふ

○初航海式　郵船會社の新造通運丸が去る十日ひ入口に於て祝宴を開きしが同地藝妓の陸續出掛けしよし

○北海道鯡漁　頗る大漁にあるが去る十日村祝津辺に至るも依然として鯡は海岸を距る凡三町の所に在り

○甲州養蠶　去る廿二三日同郡山港內高い漁夫一人四萬五千石の收穫ありしが今年は十間も進み出て吉岡村近郡は有名の蠶場にて總社堂村は行方不明の蠶種ありしが今年は例年より變りし事なしとい ふ

御料理　大坂亭
新橋壱十郎町一番地
花柳界御料理業以來日增繁榮仕候段偏ニ相成リ候ニ付料理向注意ヲ加ヘ鮮肉鮮魚ヲ
弊店營業ニ相成リ候ニ付料理向注意ヲ加ヘ鮮肉鮮魚ヲ
家扶　永慶

小石川關口町百六十二番地別邸ニ轉寓ス
松平

日本鐵道會社廣告
明治二十年五月一日
日本鐵道會社株式之內二十二株右華族從五位子爵櫻井供義所有分今般世襲財產ヲ爲シ度旨山願ノ趣宮內大臣ヨリ被達候條故障アル者ハ來ル

日本天堂副院長
虎列拉
本書ハ佐藤
タコー氏